

魚介類の核種分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内海域>
2019年度 第1四半期採取分

【魚介類のトリチウム(半減期 約12年)測定結果】 採取場所(地点番号):熊川沖合4km付近(T-S8)

試料名 (部位)	採取日	トリチウム濃度 (Bq/L)		トリチウム濃度(Bq/kg(生))		参考 Cs-134とCs-137の 合計(Bq/kg(生))
		組織自由水型	有機結合型	組織自由水型	有機結合型	
ヒラメ(筋肉)	2019年4月10日	0.094	ND(0.27)	0.075	ND(0.039)	ND
ヒラメ(筋肉)	2019年5月28日	0.096	ND(0.27)	0.074	ND(0.043)	ND
ヒラメ(筋肉)	2019年6月20日	0.091	ND(0.28)	0.068	ND(0.049)	ND

<参考>

	採取日	トリチウム濃度 (Bq/L)
熊川沖合4km付近 (T-S8) 海水	2019年4月10日	0.084
	2019年5月27日	0.10
	2019年6月19日	0.075

※ 基準値(2012年4月1日以降) Cs-134、Cs-137の合計: 食品1kgあたり100ベクレル

※ トリチウム分析は 一般財団法人 九州環境管理協会にて実施。

* 可食部(筋肉)で測定

* 組織自由水型トリチウムとは魚の筋肉に含まれる水分に含まれるトリチウムをいい、魚が生息する海水中のトリチウム濃度と比較される。

有機結合型トリチウムとは乾燥させた魚の筋肉に含まれるトリチウムをいい、乾燥させた魚の筋肉を燃焼させたときに発生する水に含まれるトリチウム濃度をあらわす。

* 測定結果は有効数字2桁で記載。

* NDは検出限界値未満を表し、括弧内は検出限界値。